

急傾斜地帯の住民の防災に関する意識調査

熊本工業大学 正員 〇村田 重之
 " " 田代 敬次
 " " 茨谷 秀昭

1. まえがき 都市への人口集中に伴って斜面地帯への宅地の開発が進み熊本市においても豪雨災害の危険性は年々高まってきている。一方、豪雨による土砂崩壊の予知、予報の研究は現在各方面で勢力的に進められているもののまだ道程は遠く、土砂崩壊による被害、特に人的被害を最小限にくい止めるためには適格な避難が現時点での最も有効な手段と考えられる。適格な避難のためには住民への適切な情報の提供と、それを受けた住民(特に急傾斜地帯に住む)の適切な判断による避難が欠くべからざるものと考えられる。本研究は、急傾斜地帯に住む住民の意識調査を行い、今後の研究、対策のあり方の基礎資料を得る目的で行ったものである。

2. アンケート調査対象地域とその選定理由 調査対象地域は熊本市の北の京町台地(高さ30~50m)の裾に配置する一帯であり、図-1において斜線を入れた地域である。この台地は溶結凝灰岩とその風化土(灰土)でおおわれ、過去にしばしば土砂災害が発生しているところである。調査の対象とした地域は著者らが以前現地調査を行った急傾斜地帯で、10戸以上の世帯が集中している場所である。したがって無作為抽出による一般のアンケート調査ではない。このような抽出を行った理由は、豪雨による災害で直接被害を受けることのない住民に対するアンケートは上記の目的のために何ら役には立たないと考えたからである。このようにして抽出した調査対象世帯数は429戸、配布数は274戸、回収数220戸、対象世帯数に対する回収率は51.3%、配布数に対する回収率は80.3%であった。配布と回収は学生が戸別に訪問して行った。

3. 調査結果と考察 調査項目は、著者の1人が執筆にわたった文献りのそれを全面的に採用した。質問事項は全部で36問、サブクエッション7問で、それらを大きく6部間に分けている。

(1) 住民がとらえた調査対象地域の特性 自宅周辺の豪雨災害に対する安全性の認識は、「やや不安を感じる」が31.4%、「不安を感じる」が30.5%と6割強の人が不安を感じながら生活をしている。災害に対してこれまでに避難したことがある人が35%と以外に多い回答となっている。これまでの豪雨災害での被災経験については、「特に経験はない」と答えた人は14.4%で8割以上の人が何らかの被災経験を持ち、そのうちの58.8%の人が現在地において経験している。自宅周辺で過去に豪雨災害があったことを「実際に見聞した」が70.0%、「聞いたことがある」が15.0%で85%の人が自宅周辺での豪雨災害を見たり聞いたりしている。以上、調査対象地域は豪雨災害に対して危険の高い地域と住民自身も認識しているといえる。

(2) 災害に対する日常的準備と対応 豪雨災害に関することが話題になるのはやはり梅雨から台風の季節で63.1%が「話題になる」と答え「全く話題にならない」はわずかに6.6%である。大雨注意報や警報に対する注意は、「注意はいい」が6%で、大半がよく注意している。豪雨災害になりそうときどうするかについて話し合ったことのある家庭は47.3%で内容は避難方法・非常持ち出し品・家屋の安全度等さまざまなことが話題になっている。

情報を得たり、いろいろな判断をする場合に頼りにするのは、ま



図-1 アンケート調査対象地域

す家族・近所の人・自治会長など身近に居る人や情報
 すぐ手に入る放送局(ラジオ・テレビ)で、次に消防団
 員・消防署・警察などの公的機関に移ってゆく傾向が
 ある。災害時の避難場所を知っている人は49.5%で、半
 数の人は知らない。大きな問題点である。避難命令の出
 し方については、93.3%の人が災害には万が一があるので
 早目に出すべきだと答えている。また、どのような状況
 になったら避難を始めるかについては、「避難命令が出た
 らすぐに」が9.1%、「避難命令が出る前でも不安を感じ
 たら」が37.7%で多くの人が早目に避難すると答えて
 いる。防災に対する知識は「充分持っている」が11.3%で
 災害を経験した人が多いにもかかわらず知識が不足して
 いる。何から知識を得ているのかに対しては、マスコミ
 のニュースや災害特集あるいは市町村の広報紙や防災の
 パンフレットが非常に役立っている。

(3) 地域住民の協力 災害時のための自治会・町内
 会の充実に82.7%の人が充実させた方がよいと答えて
 いる。また、豪雨災害が起きて自分の家族の安全が確保
 された後の行動は、「積極的に協力する」が28.6%、「でき
 れば地域の活動に協力したい」が46.8%となっている。
 しかし、地域に被害が出たとき自治会・町内会の人達が
 協力して活動できるかに対し、64.5%の人が「あまり期
 待できない」と答え、現実面での日常的な連帯の薄さが
 うかがえる。

(4) 土木施設に対する信頼度 堤防、砂防ダム、擁
 壁などの土木施設で治水、治水を行えば「完全に防げる
 」と答えた人が25.5%で絶大な信頼を置いているのに対し
 、土木計画者は何年確率で土木施設の安全性を考えてい
 るのでそこにはかなりギャップが存在している。

(5) 防災対策 豪雨災害に備えて日頃から知ってお
 きたいことには、地域の安全性、避難場所、警報などの
 連絡体制、避難の方法などがあげられている。地方自治
 体に期待する豪雨災害対策として、豪雨災害に強い市街
 改造、避難場所の確保や整備、災害の予知伝達体制の充
 実とあわせて地域の危険度の災害予知の研究が上位にあ
 げられており正確な情報の提供が望まれている。防災対
 策の充実のためには「ようこんで協力する」が31.3%、「少
 し協力する」が57.7%となっており、行政の熱意があれば
 協力が得られると思われる。

(参考文獻) 1) (財)九州経済調査協会:福岡地方における
 水害情報の蓄積・伝播の研究, 1986。

もし豪雨になった場合、あなたのお住いの周辺は安全だと思いますか。
 1. 安全だと思う…… Q1へ 2. まあ安全だと思う…… Q1へ
 3. やや不安を感じる 4. 不安を感じる
 5. わからない…… Q2へ

				N = 220			
3	31.4 %	(4)	30.5 %	(2)	27.7 %	(1)	9.5 %

あなたはこれまで豪雨災害で何らかの被害を経験したことがありますか。あてはまるものすべてに
 Oをつけて下さい。

1. 負傷したことがある
2. 親族に死亡や負傷したものがいる
3. 浸水により家屋が半壊・全壊・流失の被害を受けたことがある
4. 床上浸水の経験がある
5. 床下浸水の経験がある
6. 土砂災害により家屋が半壊・全壊の被害を受けたことがある
7. 土砂災害により宅地などに被害を受けたことがある
8. その他(具体的に)
9. 特に経験はない

N = 209									
(4) 28.2 %	(5) 18.2 %	(7) 14.8 %	(9) 14.4 %	(8) 11.0 %	(6) 3.3 %	(3) 2.4 %	(2) 1.9 %	(1) 1.5 %	(10) 0.4 %

あなたのお住いの地域(小学校区ぐらいの範囲)で過去に豪雨災害があったかどうか知っていますか。

1. 豪雨災害実際に見聞した
2. 豪雨災害があったことを聞いている
3. 豪雨災害はなかった
4. わからない

N = 212					
(1)	70.0 %	(2)	15.0 %	(4)	2.8 %

あなたの身の回りや豪雨災害に関することはどのくらい話題になっていますか。

1. 季節に関係なく話題になっている
2. 季節に関係なく、ときどき話題になっている
3. 季節に関係なく、たまに話題になっている
4. 梅雨から台風季節には、よく話題になっている
5. 梅雨から台風季節には、ときどき話題になっている
6. 梅雨から台風季節には、たまに話題になっている
7. 全く話題にならない

N= 211						
(4) 29.9 %	(5) 20.9%	(2)13.7	(6)12.3	(1)10.9	(7) (3)	

かりに豪雨災害が起こりそうな場合、情報を得たりいろいろな判断をしたりする際にあなたは誰を
 頼りにすると思いますか。あてはまるものすべてにOをつけて下さい。

1. 家族
2. 近く(小学校区ぐらい)に住んでいる親戚
3. 近くではないが親戚
4. 近所の人
5. 自治会長など地域のことに詳しい人
6. 消防団員
7. 消防署
8. 知人・友人
9. 警察
10. 市役所・区役所・町役場・村役場
11. 放送局(ラジオ・テレビ)
12. 新聞社
13. その他(具体的に)

N = 872													
(11)	17.3%	(1)	14.6%	(4)	12.6	(7)	10.8	(5)	(9)	(6)	(10)	(8)	2.3

では、かりに豪雨災害が起きて、自分の家族の安全が確保されたあとはどう行動しますか。

あなたの気持ちに近いものを、次の中から1つだけ選んで下さい。

1. 地域の人と協力して、水防活動やけが人の救出を積極的に行う
2. できれば、地域の活動に協力したい
3. 他人の世話をする余裕はないと思う
4. 勤務先などの災害対策のため、地域の活動には参加できない
5. わからない

N = 220				
(2) 46.8 %	(1) 28.6 %	(3) 15.5 %	4	5

次の中で、あなたが国や県市町村などの地方自治体にやってもらいたいことと思う豪雨災害対策は次の
 どれでしょうか。あてはまるものに3つ以内でOをつけて下さい。

1. 豪雨災害予知の研究の充実
2. 豪雨災害に強い都市改造
3. 避難場所の確保や整備
4. 避難する時の誘導体制の確立
5. 救急医療・物資救援体制の整備
6. 地域の危険度の研究・発表
7. 危ない所に住まないような指導
8. 豪雨災害の予知伝達体制の充実
9. 災害時の心得を広く知らせる
10. 水害保険や被害保険の制度
11. 豪雨災害対策組織の強化
12. 治安の確保
13. 交通路の確保
14. その他(具体的に)

N = 601																
(2)	9.5 %	(3)	2.1	(6)	11.1	(1)	10.0	(8)	9.3	(5)	8.2	4	11	7	10	9